

2020.9.2 第12回下田市立学校統合準備委員会 資料

新中学校校章選定について

1 校章選定スケジュールについて

時 期	内 容	備 考
R元.12.20	校章募集要項決定	第9回統合準備委員会にて承認。
R2.4～5	校章募集（一般51作品・児童生徒501作品 計552作品）	
R2.7.2	第1次審査（一般28作品・児童生徒70作品 計98作品）	美術・図工科教職員6名による審査。
R2.7.10	第1次審査98作品について静岡大学伊藤教授の意見聴取	
R2.7.31	第2次審査（一般8作品・児童生徒14作品 計22作品）	静岡大学伊藤研究室による審査及び美術・図工科職員6名による審査。
R2.9.2	第3次審査（第2次審査22作品から最終候補5作品選定） ※最終候補5作品には、賞状・図書カード等1万円相当を贈呈。	第12回統合準備委員会にて選定。 22作品、選定方法等、当日配付。
R2.9	第3次審査最終候補5作品について、静岡大学伊藤教授に校章改良依頼	1作品について、数パターン作成。
R2.12	校章改良作品数パターン提示・第4次審査	統合準備委員会にて選定。 ※数パターンで市民投票実施の場合、第4次審査を省略。
R3.2	校章改良5作品について、市民投票実施（第5次審査）	
R3.3初旬	市民投票結果を参考に校章1作品を最終選定	統合準備委員会として最終選定。
R3.3中旬	統合準備委員会の結果を教育委員会へ答申	統合準備委員会会長・副会長
R3.3下旬	答申内容について教育委員会にて審議	承認を得て、正式に決定。
同上	市長、教育委員会で組織する総合教育会議で報告	報道機関、ホームページ等で公表。

2 専門家への依頼について

下田市教育委員会として、静岡大学教育学部(地域創造学環副担当)の伊藤文彦教授に対し、校章・制服エンブレム・学校名ロゴ作成(漢字・ローマ字)について、協力依頼(静岡大学学生の協力含む)。

<参考：伊藤文彦教授について>

所属 静岡大学教育学部美術教育講座(デザイン分野) (1986～)

静岡大学地域創造学環アート&マネジメントコース (2016～)

愛知教育大学・静岡大学共同大学院博士課程 (2012～)

学歴 千葉大学教育学部卒(1981) 筑波大学大学院博士課程芸術学研究科単位取得退学(1986)

専門 デザイン<デザインプロセス、デザインリテラシー、デザイン思考(発想法)>

主な活動 (他多数)

ロゴ/マーク 「静岡大学50周年記念デザイン(スクールカラー・学章他)」(2000)

ポスター 「焼津さかなセンター 笑顔でつなぐポスター展」プロジェクト(2014・2015)

ブランディング 「お茶のまち静岡市」イメージアッププロジェクト(2012～)

3 第1次審査及び第2次審査について

(1) 審査日時等について

区分	日時	場所
第1次審査	令和2年7月2日(木) 午後1時30分～午後4時	道の駅開国下田みなと 4階 会議室2
第2次審査	令和2年7月31日(金)午後3時～午後4時30分	下田市立中央公民館 2階 大会議室

(2) 選定委員（美術・図工科教職員）について

学校名	役職	氏名
下田市立大賀茂小学校	校長	鈴木 健五
下田市立大賀茂小学校	教頭	土屋 大祐
下田市立稲生沢小学校	教諭	下村 千穂
下田市立浜崎小学校	教諭	矢田部 美和
下田市立朝日小学校	教諭	山田 悠一
下田市立下田東中学校	教諭	佐々木 浩彦

(3) 審査要領について

区分	選定方法・審査の視点
第1次審査	<p>【選定方法】 第1次審査では、応募総数 552 点（一般 51 点、小学生 165 点、中学生 336 点）の中から、約 100 点（一般 30 点、小学生 25 点、中学生 45 点）を選出。選出方法は、委員 2 名を 1 組とし、3 つのグループごとに約 180 点の応募作品から 33 点程度（一般 10 点、小学生 8 点、中学生 15 点）を選出する。審査は、図案とコンセプトをもとに選出。グループごとに選出した作品を集め、最後に、選考委員全員で確認。</p> <p>【審査の視点】 ①「下田市に誇りを持つ」「未来の人材の育成を目指す」「地域から親しまれる」中学校のシンボルにふさわしいデザインであるか。 ②校章として様々な使用（縮小・単色表現）に耐えられるデザインであるかどうか。 ③他の校章・商標などに類似していないか。</p>
第2次審査	<p>【選定方法】 第2次審査では、第1次審査を通過した 98 点（一般 28 点、児童生徒 70 点）から 15 点を選出。選出方法は、選考委員 6 名全てで 98 点から 15 点を選出（静大伊藤研究室から 15 点 計 30 点予定）</p> <p>【審査の視点】 ①「下田市に誇りを持つ」「未来の人材の育成を目指す」「地域から親しまれる」中学校のシンボルにふさわしいデザインであるか。 ②校章として様々な使用（縮小・単色表現）に耐えられるデザインであるかどうか。 ③他の校章・商標などに類似していないか。 ④児童生徒作品については、静大伊藤教授のリファインサンプルを参考に、リファイン後のイメージを想定しながら審査を行う（サンプルは別添のとおり）。</p>

(4) 審査の様子について



第2次審査(選考委員6名全員で選定)



第1次審査(3グループに分かれ選定)